

たんぼほ

NO. 40

H2.9.30
—発行—

〒869-12
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
TEL096
293-8100

情緒障害教育研究会

理事長 田中 稔

台風が接近し九州直撃かという天候の中、第18回九州地区情緒障害教育研究会が熊本市産業文化会館で開催されました。各県から二百名以上の先生方が参加されました。その中に、私も呼んで頂き挨拶をしました。「自閉症という障害への理解と、一人一人異なって見える障害の中の広さとその対応、工夫の大切さ」といった事を話しました。

いろんな事をやれば出来る様になるけれども、「普通ぼくならない」という比較的療育がうまくいった自閉症者のお母さんの言葉は、まさに自閉症の療育の困難さを短く適確に表現していると思います。大会の主題は「情緒に障害を持

つ子一人一人を大切にしたい効果的な指導はどうあれば良いか」でした。

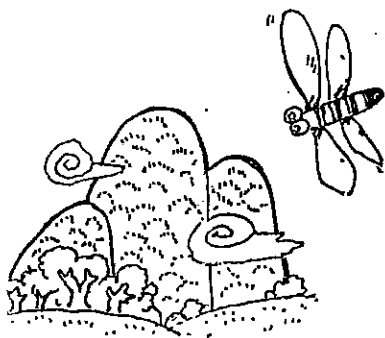
(第一分科会は「自閉症児の指導」第二分科会は「登校拒否児の指導」) 残念ながら熊本では、いろんな経緯があつて情緒障害学級が自閉症児をあまり引き受けておられないのですが、分科会での発表の多くが、何をどう療育するか?。どういう療育法でやるか?。基本的な考え方は何か?といった事の前に人間関係の作り方をどうするか?が大きな問題になっていました。

会場の中で若い先生の「今頃、パニックへの対応なんて」という会話が聞こえてきました。パニックがどういうものか、どうして起こるのか真剣に考えておられるのでしょうか。思春期に示すパニッ

クの姿を見られた事があるのでしようか。

講演は筑波大学の小林先生が、「情緒障害学級はその役割に依じて子供の療育にあたって欲しい」という内容の話をされました。

これだけ多くの先生方が集まっておられる場を久し振りに見せてもらいましたが、福祉、医療といった分野の主催する場に、教員の出席が殆どないという事が少し気になりました。教育の「経験主義」「個人主義」「閉鎖性」を無くす為に、いろんな会にも出て頂きたいと思えます。色々の分野の互いの交流、協力が障害児の療育には求められています。



療育シリーズ

物に名前がある

園長 土井尚典

自閉症の子は物覚えが非常に良いように見えます。自分の靴箱は一度で覚えます。歯ブラシやコップ等も間違えません。生年月日や人の名前も良く覚えます。確かにそうだなと思うことがあります。しかし、本当にそうだろうかと思うことが良くあります。例えば、Aくんの場合ですと、「Aくん、歯ブラシ取って下さい」と言うとき、コップを取ったり、歯磨きチューブだったりして歯ブラシが分かりません。同じAくんに「歯を磨きなさい」というと歯ブラシとって、磨き粉つけて、歯磨きし、コップでうがいをして、使った道具を元に戻します。「靴をはきなさい」というと、自分の靴箱から靴を出しはくことが出来ます。ところが、「靴を取って下さい」というと靴を履こうとしたり、靴箱へ入れよ

うとしたりして混乱がおきます。

Aくんのような園生がたくさんいます。これは物に名前があるということが分からない段階の自閉症です。Aくんの例でも分かるように、一つ一つの名前が分からなくとも、「歯磨きをする」「靴を履く」という一連の動作で覚える」と声掛けで出来ます。自分の歯ブラシや靴を、人の物と間違えないのは、「自分の物」という意識でなく「決まった歯ブラシ」や「決まった靴」である訳です。このレベルの園生に物の名前を教えることは大変難しいことです。従って、いろんなことを一連の動作で教えるとうまくいくことが良くあります。

職員の間で、担当の園生が自分の名前を知っているかという話題がありました。保護者は担当のことを「先生」と言います。恐らく担当のことを「先生」という記号で覚えているのではないか、名前など半数以上は知らないのではない

かということになりました。「先生」という記号も担当が違えば、ただのおじさん、おばさんではないかということでした。こんなことがありました。園生のSくんがK

くんに腕や顔をこすりつけていました。Kくんはそれがいやで逃げ回っていました。しかし、逃げ切れなくなって伊石指導員に助けを求めようとチラチラと視線を送っていました。伊石指導員はジーンツと見ているだけでした。Kくんは自分の担当のことを先生と呼びます。伊石指導員はKくんの担当ではありません。その場には伊石指導員(ただのおばさん)しかいません。Kくんは助けて欲しくて大声で伊石指導員を呼びました。

「メーガネ!・・・メーガネ!」伊石指導員は眼鏡を掛けていました。Kくんが知恵を絞って、伊石指導員を呼んだ事には感動致しません。Kくんは「先生」という「概念」はつかめていないと推測されます。伊石指導員は、自分を呼ん

でくれたことが物凄く嬉しくKくんをおもわず、助けたそうです。

入園に際して

坂田多鶴子



三気の里入所の通知を頂いて、ほっとする気持ちと子供と別れの生活の不安で複雑な思いで胸が一杯になりました。思い起こせば小学校入学の時、地元の小学校の入学を断られ養護学校へ入学する様勧められましたが、施設へ入所しなければ通学出来ない為手離しがたく隣の小学校の特殊学級へお願いして9年間母子で通学致しました。幸い、良き先生お友達にも恵まれ学校でも誰一人知らない者はない位、《さとし君、さとし君》とかわいがつてもらいました。中学3年生になった時点で家にいるのが良いかどうか色々迷いましたが、以前三気の里のお話しを聞いたり学校で見学に行ったりし

ていましたのでお願い出来るなら三気の里へ入所させて頂きたいと決意していました。しかし、なるべく家で畑仕事等簡単な作業でも出来る様になればと様子を見ておりましたが学校に通っても体重は増すばかりで余り動かず、一日中家で暮らすとなると益々太るのは目に見えており健康面が一番の頭痛の種でした。入所以来子供の表情も豊かになり、体重も減りとても元気になった様です。現在は土曜毎の帰宅を家族全員で楽しみに待っています。三気の里の全先生方に感謝申し上げますと共に、いつの日か家で皆と一緒に過ごせる日が来る事を祈っています。



令堂堂堂堂業中

『臨時調理員』

三気の里の調理員の定数は5名ですが10月1日の現時点では栄養

士が2名で欠員が3名です。スタッフの退職に伴い早々に、新聞広告、学校紹介、職安等に募集案内したにも拘わらず未だに欠員の補充が出来ない状況で担当者として大変頭の痛い事です。

先日、大学の先生が募集の時期が現時点では難しいので来年の新卒にしたらいかがですかと言われたので早速大学の就職課にお願いに行きました。来年の3月迄は全職員で現状を打破する事に成り、私も『臨時調理員』として厨房に入り、悪戦苦闘の連続です。今までは家庭で妻が調理したものを食べ、三気の里でも同様の私が、調理する立場になって、料理を作る食事の支度をする事がいかに大変であったかを思い知らされる毎日です。改めて妻と全国のお母さん達へ感謝の言葉を送ります。園生においしく、楽しく食べてもらう為にも『ガンバラ』なくては…。

『調理スタッフ募集中』

事務長

3班 目の前に広がるのは…

楽しい夏休みが終わり、9月に入ったある日のことでした。3班のみんなは、久木野の畑へ出かけました。秋を感じさせるとんぼが飛んでいましたが、日差しは強く、立っているだけで汗ばむ程でした。目の前に広がるのは一面雑草畑…。ひまわりは、夏休み中に太陽をいっぱい浴びた様で、哲ちゃんより大きくなっていました。大豆は雑草にうもれてしまっていて、近くに行かないと大豆とはわかりません。あの広い畑を大豆畑にしてしまうのには、時間がかかりそうです。しばらくは、木工班から草取り班へ変わる予定です。おニューの作業服を着て、3班は久木野へでかけます。

今村

4班 夏休み始末記

夏季帰宅訓練が終わり、エアコンの中で白くなって帰園した園生や、園での作業以上に草取りなどを頑張っって真っ黒に日焼けした園生の顔が揃った頃、4班の畑は『ウ〜ン。これが…。』とうなりたくなる程の『ジャングル化』を果して私達を待ち構えていました。何しろトウモロコシ畑では私達よりも高くアカザがそびえ立ち、サツマ芋畑の半分は草しか見えない状態でしたから。しかし、そこは日ごろ鍛えた草取りの腕、昨夏は選抜メンバーしか入れなかったサツマ芋畑にも今年は全員で入れましたし、『暑い。』とは言いながらも確実にジャングルが畑へと戻って行きました。一通り草取りが終わり畑が戻った時には9月の声も聞かれましたが、そこは元気印の4班、夏の終わりの三本メならぬ、アスパールでの一泳ぎで今年の夏をメました。本来なら苦痛のはずの草取りもこんな楽しみがあればいくらでも頑張れますね……。さて、秋のメは焼き芋かな？

東

5班 5班と廃材運送業

施設の運動場を最近見られた方はご存じと思いますが、運動場の隅に釘を打ち付けたままの梱包材がたくさん山積みされています。（施設にとっては宝の山なのです。）とにかく釘が多く2t車に積むのが一苦勞です。たまには手や足に抜かる時もあります。しかし、5班は1週間に1度市内の近見迄取りに行くのが楽しみです。どんな角材があるか、又どんな形の梱包材があるか色々想像しながら、日通の廃材置き場迄行きます。ただ、釘が抜かっただけにことです。その不要なものを2t車に山積みして帰ります。「燃やせば灰に」「使用すれば小屋の材料に」なります。その釘抜きの作業をするのが3班の木工部隊です。最近園生が良く頑張ってます。廃材を提供してくれてる職員の清田さんのお父さん及び日通の皆様にお礼を申し上げます。今後ともよろしく願います。

砂野



1 班 雨の中の勇者たち

夏季帰宅の終わったある日。『行きたくないね』と言ったのは私。『見るのが怖いね』と言ったのは武藤さん。もうおわかりでしょうか？そう、畑の事なのです。とりっぱなしのとうもろこしの残がい、植えっぱなしの芋とアスパラガス…。それでも勇気を振り絞って、さとし君、はじめ君、かっちゃんの3人を引き連れて畑へと向かったのです。そこに待っていたものは、とうもろこしほどに立派に育った雑草の林。『やっぱり』と思いながらも、『さあ引っ張れ』と作業を始めました。時折強くなる雨をうらめしそうに見上げながら二刀流で草を取ったさとし君。しっかり根を張ったとうもろこしに、果敢に立ち向かったかっちゃん。そして、黙々と草を取り続けたのははじめ君。すっかりきれいになった畑を背にした3人は、でっかい仕事をやり遂げた勇者の顔をしてました。

平川

2 班 草取り…これさえあれば

夏の休みが終わって、うだるような暑さの中、作業服に着替えて…外に出ると休み前にきれいに草を取っていた畑が、草ぼうぼうに変わり果てていました。まだまだ休み気分が抜けないみんなに、指導員の叱咤激励の声が飛びます。取っても取っても生えてくる草と、自分達の腰丈程に伸びた草にうんざりしながら、指導員は心を鬼にして（しばらくすると顔が鬼の様になって）声をかけ、みんなは黙々とコンテナに草を入れて行きます。やがて、畑がきれいになると、『頑張ったねー。おやつにしようかー。』の声が聞こえます。すると、みんなの顔はいっぺんに笑顔になり、おいしいおやつと、2班のみんなの要望に応じてのアイスクリームやジュースが出てきます。これさえあれば、きつい草取りも頑張れるよねーみんな。（お母さん、さし入れありがとうございます） 高橋

研修報出口

嵐を呼ぶ男

主任 坂井省英

8月21日午前6時、山梨県日野春。天候は絶好。自閉症児40名とスタッフ7名が、八ヶ岳連山の一峰、権現岳を目指しての1泊2日の登山の開幕である。少々緊張気味の私は、子供を目の前にして動きが硬く、他のスタッフには少々迷惑をかけていた。8時、40名の子供たちは、きちんと2列に並んで待っていた。ベースキャンプである日野春を発ち列車で小淵沢へ、小淵沢からはバスで観音平入口へ。いよいよ登山開始である。子供たちの中には少々ぐずるものもいたが、多くは黙々と歩いている。しばらくすると、左足かかとに少々の痛みを感じ、これが悪魔のささやきなどとは、しるよしもない。緊張の為少々無口になっていた。

(後でスタッフの一人が、おしゃべりの坂井さんがどうしたのかと不思議に思ったそうだ。)45分程で観音平につく。子供たちもまだまだ元氣だ。真新しい登山靴に慣れぬ足は、悲鳴を上げ、左右の足には立派なママが2つ。バンドエイドで応急処置をした。休憩後、足の痛みをおしころして出発、次第に急な坂道となる。スタッフは集団を把握するのだが、私は遅れがちなS君を激励しながら登る。他を見る余裕がなかったただけなのだ。足は歩きたびに激痛が走る。1時、押手川に着き昼食をとる。疲労はないものの、足の痛みは激しくなる一方だ。子供たちに無駄な動きはほとんど見られない。じつと座り続けた。昼食をすませ出発。青年小屋に着いたのは予定より1時間程遅れ、3時半近くであった。ここで、10名の子供とスタッフ1名が青年小屋に残り、30名とスタッフ6名が権現岳を目指したのである。

折り悪しく、台風の影響を受け山の天気は曇り。雨風を含み刻々

と変化して行く。山の天気ของ恐さを身をもって知った。リーダーは続登を決定、4時前出発。経験豊かなHさんに、こんな天気はよくあるのかと尋ねると、「ほとんどこんなもんですよ」と教えられ、覚悟を決めた。不思議に足は軽い。足場が悪く、子供たちもずるずる足を滑らせたり、ところどころ道幅が20・30cmで左右は切り立った崖、くさり場では、一人ずつ受け渡し。次第に、雨風が強くなり、メガネは曇り、メガネを外した方がよく見えるような状態であった。子供たちもほとんど口を開かず、スタッフの激励に力強く歩いた。



暗くなりかけたところで看板が見え、権現小屋と思ったが、その看板には「避難」と書かれていた。

ガツクリ。ところが霧の中からぼんやりと山小屋が浮かんでくる。自然と喜びがこみあげてきた。天

の助けで、5時半、権現小屋到着、6時半夕食、ランタンの灯りの中で食べたカレーの味は忘れられないものとなった。

小屋に強い風が叩きつけられる中、足の痛みも忘れ泥のように眠った。

次回、雨の中の行軍



中嶋宏幸

7月16日(月) きょうのてんき

くもり

きょうはあさから7じ9ふんに

おきました。7じ14ふんズームイ

ンあさをみました。そしてからく

すりのみました。

ぼらんていあ通信

三気の里では、ただ今日曜日レ

クリエーションのボランティアさんを募集しています。山に、海に(ハイキングに釣り)林に、草原に、村に、街にと、色々行きたいところがあるんです!・・・ぜひぜひ、暇な日を見つけて遊びに来て下さい。

また、〃我こそは〃と思われる人は、例えば人形劇、紙芝居、フルート・バイオリンなどのアンサンブル、合唱等々、御自分の趣味を披露しにやってみて下さい。いつでもお待ちしております。(あ、でも帰宅訓練の日は皆帰っておりますのでご注意ください。) 詳しくは、担当の平川か、坂本信まで。



気になる

栄養の証

いよいよ(食欲の秋)到来。店頭に並ぶ豊富な山海の幸を見ては『あれも食べたい、これも食べたい』という衝動に駆られる人も多いでしょう。けれど食欲不振で、冷たいものばかりを摂っていた夏の間の不規則な食生活で胃腸が弱っている人もいます。胃腸は栄養の消化吸収に直接関与し、重要な働きをする器官です。夏バテを引きずっていたら早く正常な状態に戻してあげましょう。

まずは、栄養価が高く消化しやすい食物(肉、魚、野菜、穀類、牛乳、乳製品)を色々な組み合わせで摂取する事を心がけて下さい。肉類では鶏のささみ、牛肉などの肉を用いて弱った胃を回復しましょう。丈夫な胃腸で最良のコンディションに保ち、豊富な秋の味覚を大いに楽しみましょう。

長友

10月の行事予定

1(月)	11(木) 2・4班レク 誕生会	21(日)↓
2(火)	12(金)	22(月)↓
3(水) 体重測定	13(土) 帰宅日 保護者会	シャツ交換 23(火)
4(木) 1班レク	14(日)	24(水)
5(金)	15(月) 防災訓練	25(木) 3班レク
6(土)	16(火)	26(金) 大掃除
7(日)	17(水)	27(土) シャツ交換
8(月)	18(木) バスハイク	28(日)
9(火)	19(金)	29(月)
10(水) 回V O 学習会	20(土) 作品展示即売会	30(火) 31(水)

※20(土)~22(月) 作品展示即売会 二の丸公園にて

後援協会入会

ありがとうございます

後援会会員紹介

久光正太郎 白浜哲也
 岩本商二 杉本紀子
 寺田 理 金子公子
 天津政博 本多邦雄

九月二十八日付け

※敬称略

◎ 後援協会入会会のお願い

平成二年度はたくさんの方からご入会いただきました。今後も『たんぽぽ』をご購読の皆様には、是非ご入会いただきたくお願い申し上げます。

後援会の申し込みはお電話でどうぞ！(振込用紙を送ります)

☎096・293・8100

担当 多田

やろう会十月の日程

4(木) 魚谷・上田・上野
 11(木) 高木・桜木・元田
 13(土) 石崎・前田・岡崎・坂本・藤崎
 18(木) 田中・清田・松村・荒牧・福田・佐々木
 25(木) 松枝・中嶋・岩永
 いつも、お手伝い御苦労様です。

《編集後記》

去る9月15日、コロロE.T.センターより石井聖先生をお迎えして

自閉症療育セミナーが行われました。セミナーには県内はもちろんのこと、県外からも医療・教育・福祉に携わる方々や自閉症のお子さんを抱える親御さんなど、たくさんの方々が参加して下さいました。同センターでの活動、研究の話は大変参考になるものでした。今後、私達三気の里でも自閉症児者の療育に役立てていきたいと思えます。石井先生をはじめ、ご協力くださった方々ありがとうございます。

みか